

庄内砂丘地における「さといもの早掘り栽培」とその収益性

山形県庄内総合支庁産業経済部農業技術普及課産地研究室

研究のねらい

庄内砂丘地域は、早春の降霜害が少なく、土壌水分が比較的少ないことから耕起、畝立て作業も容易なため、さといもの早期定植が可能である。そこで、さといものを4月に定植し、8月下旬から9月初旬に収穫（以下「早掘り栽培」）した場合の収量性および収益性を明らかにした。

研究の成果

- ① さといもの早掘り栽培は、品種「大和早生」を4月中旬に定植し、マルチ内に設置した灌水チューブで、降水量換算 2mm 程度 (2,000L/10a) を収穫前まで、雨天日を除く毎日灌水する体系とする (図 1)。
- ② 8月下旬の収穫では、商品収量は 900~1,300 kg/10a 程度が見込まれ、商品収量 1,100 kg/10a の場合、21 万円程度の所得が期待できる (図 2)。
- ③ 9月初旬の収穫では、商品収量は 1,500~1,800 kg/10a 程度が見込まれ、商品収量 1,600 kg/10a の場合、32 万円程度の所得が期待できる (図 2)。

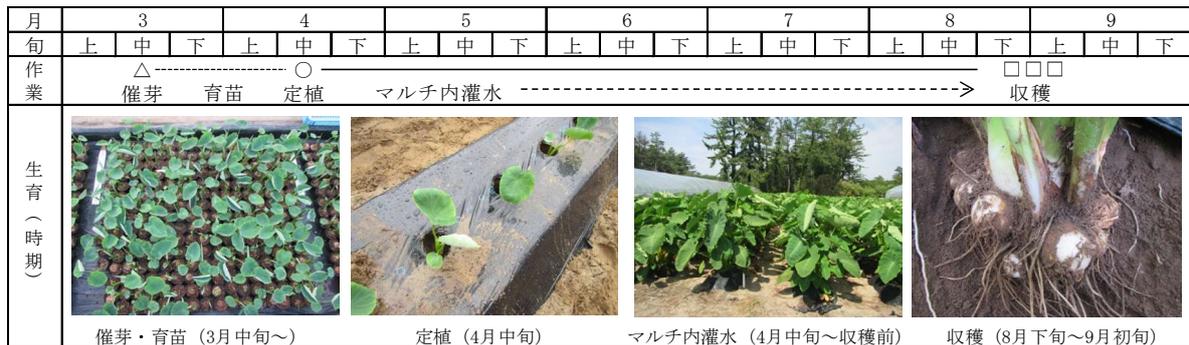


図 1 早掘り栽培体系

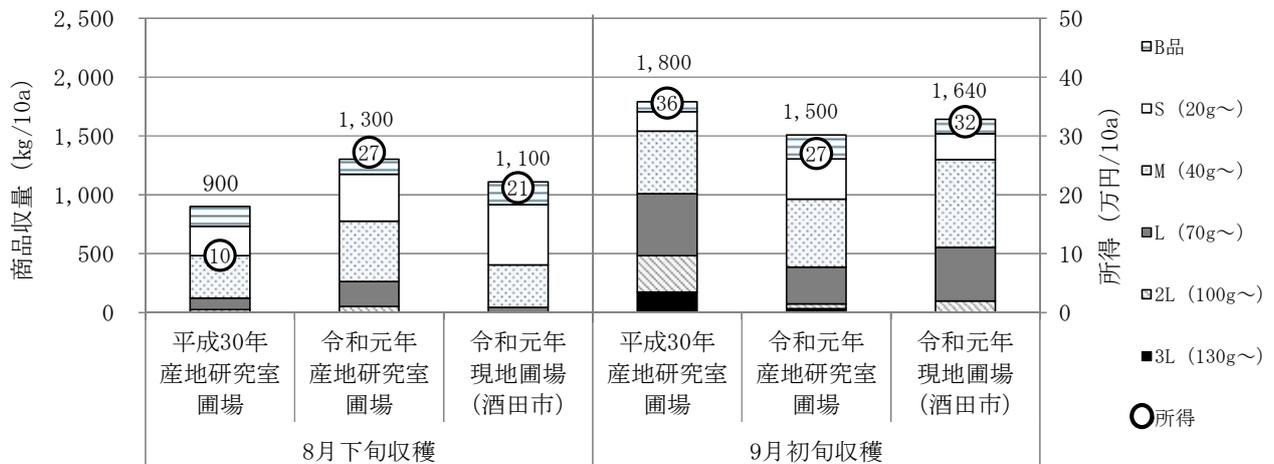


図 2 収量性（商品収量、階級別収量）および収益性（所得）

問い合わせ先：園芸研究担当 TEL:0234-91-1250